



鶏 けいめい 鳴

2008年10月12日(第18号)

イエスの言葉

『わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩まず、命の光を持つ』
(ヨハネ福音書8章12節)

牧師 河合裕志

よくまあこのようなダイソレタことが言えたもの。「わたしは世の光である」。この人アタマおかしいんじゃない？と言われてしまいそう。現にそこにいた人々は反応した。「あなたは自分について証しをしている。その証しは真実ではない」。これはもっともな言い分。誰だって自分については何とでも言える。問題は本当にそうなのか。言った通りのあなたは人間なのかということ。うかうか信用してついていってとんでもない結末が待っていたということは古今東西実例にかくことがない。猛毒サリンを散布させられた人々はその犠牲者。殺された人達は勿論犠牲者だがニセ教祖に従ってしまった人々も犠牲者に違いない。

イエスは私は世の光だ、我に従え、と豪語しているけれど大丈夫なのかな。この人が本物かどうかはどうやって見分けたいのかな。この人に従ったばかりに暗闇の中を歩くハメになったらどうしよう。これは当然の心配。これについてはイエスの言うところをマコトと信じ従ってみて自ら実験する他ないのだが、その前に信じ従った人々の場合を見ることは参考になる。

今その一つの例としてブリタニカ国際年鑑2006年版による世界の主要宗教信徒数を見るとキリスト教は21億3千3百万人余で世界人口比の33%ということ。以下イスラム教、ヒンドゥー教、と続く。私はこうした

数値からキリスト教、イエス・キリストの教えは信頼に足るものではないかと思いたいがいかなものか。同じキリスト教といっても合同結婚式を催したり輸血拒否を唱える変な団体もあるが大体は教派は違っても正統的なキリスト教。とにかくキリストの教えは2000年の風雪に耐え今日21億の人々によって受け入れられている。

あとは自ら実験すること。イエスが私にとって光であるのかどうか。イエスに従ったら暗闇の中を歩まなくなるのかどうか。光、それは明るい、あたたかい。イエスをわが心の中に迎え入れたならば私は明るくされる。あたたかくされる。つまりイエスがいつも一緒なのでどんな暗闇、苦しい時にもなお支えられ励まされ希望をもって生きる者とされるということ。そしてイエスはこの世の生涯を終えても共にいてくれるので私は永遠の命の希望をもって生きることができる。あなたもその実験台になってみたらどうだろう。イエスは裏切らない。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日 午前10時15分
 こどもの教会 : 毎日曜日 午前9時
 高校生会 : 毎日曜日 礼拝後
 婦人会・壮年会 : 第2日曜日 礼拝後
 聖書を学ぶ集い : 第4水曜日 午前10時
 オリーブの会(読書会) : 第3月曜日午前10時

9月の教勢 礼拝出席者(平均) 33
 こどもの教会出席者(平均) 21

〒221-0864 横浜市神奈川区菅田町2851

日本基督教団新横浜教会 河合裕志牧師
 (電話 045-473-7191)